





今月号の 表紙



とよたち 4月号の表紙は、
満花のサクラの下の下で かわいらしい
ワンピースを着た女の子が、Tのしそうに
お花見をしている絵です 



バドミントンや歌う事が好きで、
得意な事は「少林寺拳法」とのこと!!
黒帯めざして頑張っているかわいくて、かっこいい
女の子が 来てくださいました 

ありがとうございます

院長はじめ スタッフ一同

心より感謝いたします。



ヒトの脳神経系細胞は140億個あると言われている。それらを結ぶ神経回路は正に網目の様に張り巡らされている。その神経回路を仮に一本に伸ばした5月にまで届く距離になるらしい。そんなものが頭の中に納まっているとは。

我々が日々生きていられる理由は数え切れない生理現象によるものだが、絶えず血液が体を巡っているということもその一つと言えよう。ヒトの血管を全て合わせると地球を2周半も周るという。そんな長いものをどの様にこの体に納めたのか知るよしもない。

心臓が一日に送り出す血液の量は約8000Lであり、2Lのペットボトル4000本に相当する。もし人が80年生きるとすれば約2億3000万Lとなる。これは石油タンカー一隻分に相当する。言い様ではあるが、私達のこの体に巨大な石油タンカーを積んでいる様なものである。

一生のうちに食べる量を考えてみる。米で6トン。肉や魚や野菜を合わせると何十トンになるであろう。そんな膨大な食べ物が胃腸を通過していく。

ヒトの心臓が数分間止まり、脳への血流が途絶えたと確実に脳死に近づく。脳死がヒトの死か否かは法律と社会的倫理とに今だ分離している点があることは否めないが、心臓が数分間停止するだけで確実に死に近づくことは事実である。死なない様に我々の心臓はかた時も休まず全身に血液を送り続ける。私達が眠っている時にも。

これらの神秘に満ちた生理現象を日々気にして生きている人はほほいなり。当たり前と思っているからだ。でも実は生きていられることが当たり前ではないことは、言われて考えれば「多くの人には理解できる。では当たり前でなるとしたら何だろうか。当たりの反対語は「滅多にないこと」であるという。転じて「有ることが難しい」こととなる。すなわち、「有ることが難しい」とは「ありがたい」とイコールである。「ありがたい」気持ちを表現すると「ありがとう」になる。このことから、「ありがとう」の反対語は「当たり前」と言えよう。